

産廃処理業の

52

優良化を考える

評価制度の核となる情報公開では、現在二〇〇社を超える処理業者が産廃情報ネットを通じて公開を始めるなど、徐々に業界でも体制が整いつつある。しかし、一部では公開された情報の信頼性を確認する術がないことを問題視する声も出ている。こうした中、イーコスでは、リアルタイム排出物ウェブ管理システム「イーコスネット」の構築を進めている。同システムでのトレーサビリティを優良化を裏付ける基準とすることを目指す堀田芳史社長に優良化に対する考えなどを聞いた。(黒岩修)

静脈産業には第三者的機関が必要
 — 廃棄物処理業界とのかかわりは。「私は物流業界に長く携わってきたが、七、八年位前からサプライチェーンマネジメントをどうするかというところが盛んに言われるようになってきた。物流業もそれまで

イーコス社長



が、コスト体系や事業内容などが良くわからないという意見が大半だった。そこで処理業界の問題点などを分析し始めた」

の単に物を預かって運ぶというだけでなく、全体の流通在庫の管理などが重視されるようになった

「米国などの物流業界では第三者的な立場で顧客の物流部門を代行した

物流業界はここ数年許認可関連は規制緩和で来たが、静脈は逆に規制強化の二途を辿っている。規制で処理業者はなかなか全国的な業務展開が難しい。そうなった時、我々のような第三者的な機関が必要になってくる」

「現在排出物トレーサビリティの標準化を自

「優良化事業との関係は。情報が公開するだけ

「具体的な展開は。会計は非上場会社であれば監査人が必要だという規定はない。公開された

「優良化の課題は。標準化したトレーサビリティという基準が

「情報公開の裏付けとしての役割を担うのか。有識者などが様々な角度から情報公開項目を検討してきたが、本場に現場を知っている者から見れば、まかすことができることも否定できない。やはり裏付けできることだと考えている。基準が必要になってくるだろう。トレーサビリティの仕組みが普及して

優良の基準作りが急務

た。当時リサイクル分野が伸びていくだろうと思いい、静脈系の物流がどうなっていくかということ

「情報公開の裏付けとしての役割を担うのか。有識者などが様々な角度から情報公開項目を検討してきたが、本場に現場を知っている者から見れば、まかすことができることも否定できない。やはり裏付けできることだと考えている。基準が必要になってくるだろう。トレーサビリティの仕組みが普及して

いくことが情報の透明性、信頼性を高めることになってくる」

堀田 芳史氏